2021.05.23.　聖書の学び
落ち着いて上を見る
新約聖書ヘブル人への手紙１章 1～14 節

おはようございます、ようこそ。日曜日の朝の第二礼拝です。日曜日には二つの礼拝を行っています。第一礼拝は、「聖書預言・アップデート」で、第二礼拝は、神の御言葉の一節ごとの学びです。先週はピレモンへの手紙を終えました。今日から「ヘブル人への手紙」を始めることになり、とてもワクワクしています。さて、聖書箇所は、章全体になります。第１章全体です。昼食を持参して来ていますね、しばらくここにいることになりますよ。何時もではありません。これは、1 週間に 1 章を学ぶということではなく、今日だけです。主が私たちに与えてくださるものを、とても楽しみにしています。もし未だであれば、ヘブル人への手紙 1 章をお開きください。1 節から始めましょう。ここにいる方で、出来る方はお立ち下さいますか？　私が読みますのでついてきてください。ご無理な方は、座ったままで結構です。「ヘブル人への手紙」の著者はこう始めています。1 節。

ヘブル人への手紙１章
1 神は昔、預言者たちによって、多くの部分に分け、多くの方法で先祖たちに語られましたが、
2 この終わりの時には、御子にあって私たちに語られました。神は御子を万物の相続者と定め、御子によって世界を造られました。
3 御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れであり、その力あるみことばによって万物を保っておられます。御子は罪のきよめを成し遂げ、いと高き所で、大いなる方の右の座に着かれました。
4 御子が受け継いだ御名は、御使いたちの名よりもすばらしく、それだけ御使いよりもすぐれた方となられました。
5 神はいったい、どの御使いに向かって言われたでしょうか。『あなたはわたしの子。わたしが今日、あなたを生んだ』と。またさらに、『わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる』と。
6 そのうえ、この長子をこの世界に送られたとき、神はこう言われました。『神のすべての御使いよ、彼にひれ伏せ。』」
7 また、御使いについては、『神は御使いたちを風とし、仕える者たちを燃える炎とされる』と言われましたが、
8 御子については、こう言われました。『神よ。あなたの王座は（父なる神から御子への言葉です）
世々限りなく、あなたの王国の杖は公正の杖。
9 あなたは義を愛し、不法を憎む。それゆえ、神よ、あなたの神は、喜びの油で、あなたに油を注がれた。あなたに並ぶだれよりも多く。』
10 またこう言われました。『主よ。あなたははじめに地の基を据えられました。天も、あなたの御手のわざです。
11 これらのものは滅びます。しかし、あなたはいつまでもながらえられます。すべてのものは、衣のようにすり切れます。
12 あなたがそれらを外套のように巻き上げると、それらは衣のように取り替えられてしまいます。しかし、あなたは変わることがなく、あなたの年は尽きることがありません。』
13 いったいどの御使いに向かって、神はこう言われたでしょうか。『あなたは、わたしの右の座に着いて

いなさい。わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまで』と。
14 御使いはみな、奉仕する霊であって、救いを受け継ぐことになる人々に仕えるために遣わされているのではありませんか。
そういうことです！（笑）では、お祈りしましょう。一息つかせてください。
わぉー、ワオ、主よ！　主よ、私たちは今、あなたの聖なる神の御言葉を読みました。この油注がれた聖書の箇所は、すべてはあなた、イエスについて書かれています。主よ、だからこそ、私たちは今日ここにいるのです。今日、与えられたこの章で、あなたが私たちの人生に語りかけたいことは何なのか、聞く必要があるからです。また、あなたが私たちに見せたいものが何であるかを見る目を持ちたいのです。なぜなら、明らかに、あなたはここで、私たちに見せたいものがあられるからです。ですから主よ、私たちは気を散らさず、あなたに、すべての注意を払いたいのです。なぜなら主よ、あなたの御口から出るすべての御言葉を聞き漏らしたくないからです。御霊が、私たちに、あなたの教会にお語りになることを聞きたいのです。ですから主よ、どうかお語りください。あなたのしもべは聞いております。イエスの御名によって。アーメン、アーメン 。着席していただいて結構です。ありがとうございます。
今日は、世界で起きていることすべてに照らし合わせて、というか、それにもかかわらず、私たちクリスチャンが、心静めて、主を見上げることができるのはなぜなのか、ということについて、お話ししたいと思います。それが今日、私たちの前にある、この章に織り込まれているのです。私たちが知っているように、この最後の時代に、日を追うごとにプレッシャーやストレス、言うまでもなく、クリスチャンの迫害も増加していることに、同意していただけると思います。ありがたいことに、御霊は神の御言葉によって、私たちが生きている今日の危機的な時代について、神の民である私たちに語ってくださってます。話に入る前に、この素晴らしいヘブル書を理解するために欠かせない、いくつかのことを知っておくとよいと思います。どの聖書の書もそうですが、とにかく、これはすごい書です。第一に、これは興味深いことですが、神は、この手紙の著者を特定する必要があるとはお考えになりませんでした。この手紙は誰が書いたのか、明確にされてません。そしてまた興味深いことに、この当時のヘブル人クリスチャンに向けて、非常にユニークな方法で書かれています。これから見るように、紀元 70 年以前でなければなりませんが、60 年代に書かれたと信じられています。1960 年代の話ではありません。西暦 60 年です。もしそうであれば、多くのことが説明できますが、そうではありません。書き方が非常にユニークです。ユニークというのは、聖書の他の書物とは違って、次のような意味でのユニークさです。語られるべき説教のように始まり、読まれるべき手紙として終わります。そして、それはまさに、イエスで満ちてます。この素晴らしい書のいたるところに、イエスが出てこられます。この手紙に標題をつけるとしたら、たぶんこのような内容となるでしょう。
”落胆してはならない。イエスの優位性のゆえに強くあれ！”それが見出しでしょう。
つまり、イエスが誰であるかという優位性と、イエスが、私たちを救うために死んでくださったというような、イエスがなさったことの優位性です。さて、これが書かれたとき、ヘブル人クリスチャンたちは大きな試練に直面しており、特に、同胞のユダヤ人兄弟たちから強烈な迫害を受けていたことを、理解することが重要です。そして、このような理由から、「ヘブル人への手紙」の著者は、８０以上もの旧約聖書箇所を引用することになるのです。なぜそれが重要なのか？　なぜなら、このことを考えてみてください。毎日、このヘブル人クリスチャンたちは、多大な犠牲を払って、理解しなければなりません。もしあなたがユダヤ人で、イエス・キリストの救いの知識を得たなら、それでおしまいです。仕事を失い、家族

を失い、生活の糧を失い、全てを失います。これには大きな犠牲が伴いました。これらのヘブル人信者は毎日、ユダヤ人兄弟たちが神殿に行き、そこで礼拝するのを見ていました。だからこそ、紀元 60 年代のある時期でなければならないと考えられているのです。なぜなら、イエスが預言したとおり、神殿が破壊されるのは、紀元 70 年だからです。彼らは、ユダヤ人の同胞、家族を見ているわけです。
彼らは、イエス・キリストへの信仰を表明したために、排斥されているのです。彼らには強烈なプレッシャーがあり、屈服してユダヤ教に戻ってしまいそうな、計り知れない誘惑があったことを、知っておくべきです。そこで、「ヘブル人への手紙」に入ります。このヘブル人クリスチャンたちは、常に、動揺の中で生活しなければならなかったと思うのです。彼らは日常的に、キリストに従うために、非常に重い代償を払っていました。それはとても簡単なことで、彼らの中には誘惑に負けてしまい、こう言うのです。
「律法を守るため、神殿に出入りして、儀式のすべてを行って何が悪いのか？」そうすれば確かに、生きてゆくのは楽になりますよね。こんな言葉に、聞き覚えのある人はいませんか？「俺の人生は、とてもやりやすくなる。」「仕事も、もっと安定する。」「流れに身を任せていれば…。分かるか、兄弟よ？」（笑）
これ以上は言いません。私のメモにはなかった話です。これが、彼らが直面していたことです。
しかし、神は！　しかし、神はこのことをご覧になり、ご存じであり、気にかけておられたので、書き手を励まし、この静かで冷静な手紙を書かせたのです。
「静まって、顔を上げなさい、イエスに目を向けなさい。」「ただひたすら、イエスに従い続けなさい。」
次のにあげる三つは、当時のヘブル人クリスチャンと同じように、現在のクリスチャンである私たちが、今日の世界で起こっているすべてのことにもかかわらず、ただ主に心を向け、主に信頼し、聖霊による落ち着きと慰めを得ることができる理由です。一つ目は、「イエスがすべてを支えている」からです。今日の「聖書預言・アップデート」で、気づかされました。また、私のメモには書かれていませんでしたが、聖霊が私に促していると感じました。私のためだけにあったのかもしれません。自分がこれを聞く必要があったのです。というのは、わたしはよく取り乱したり、慌てたりするからです。あなたがたは違うことはわかっています。私よりも、もっと霊的ですから。でも、起きているすべてのことが狂っており、そして時が進むと共に、より狂っていくように思えることを、私は思い出さなければなりません。礼拝前に話していたのですが、周りを見渡すとどうなってるんだ？　時には、冷静になるべきで「これは、本当に起こっていることなのか？　勘弁してよ！」そして、毎朝起きると悪夢から目を覚ますときって、あるじゃないですか。あなたは「ああ、感謝します、イエス様！」という感じです。つまり、そのような朝は悪夢から目覚めたときのデボーションで「ああ、ハレルヤ～♫」「ああ、夢でよかった！」唯一の問題は、目が覚めても同じことの繰り返しで、しかも悪化していることです。「これは夢ではない！本当に起こっていることだ！」しかし、ここからが本題です。すべては神の預言されたご計画に沿って、完璧に進んでいます。とにかく落ち着いて、静まってください。学生時代の先生が、いつも言ってました、「落ち着け！」「落ち着け」いい言葉ですね。先生は、いつも私だけに言っていて、他の誰にも言っていませんでした。
この最初の 3 節だけで、ヘブル書の著者は、旧約聖書の預言者たちに対するイエスの優位性を証明しています。また、イエスは優れているだけでなく、輝かしい栄光でもあります。私は、この表現が的確で気に入っています。
「イエスは、父なる神の完全な現れです。」
イエスは弟子たちに、もしあなたが私を見たなら、あなたがたは、御父を見たことになると仰いました。
「父と私は一つです。」（ヨハネの福音書 10：30 参照）

そして、イエスは御父を正確に現されているだけでなく、御父の右の座に着かれているのです。これは重要なことです。なぜか？　なぜなら、座るのはどんなときですか？　仕事が終わったときですよね。「完了した。」（ヨハネの福音書 19：30 参照）静まってください。それどころか、座っている間に煮詰まってください。完了したのです。終わりました。十字架上で、すでに完了した御業。
重複してしまいますが、ご容赦ください。十字架上の、完了された御業は、完了しました。深い意味がありますよね。原語での、「完了した」という言葉の意味を知りたいですか？　いいですか？「完了した！」（笑）終わったのです。それは完了しました。あなたが他にやるべきことはありません。付け足すこともできず、差し引くことも出来ません。完了しました。座ってください！お願いします。あなたが行ったり来たりしていると、私が不安になります。何が問題ですか？　私はこれが大好きで、イザヤ書でも見ましたが、先週述べたとおりです。つまり、木曜日の夜にイザヤ書を読んでいないなんて、あなたは人生損しています。そして、日曜の朝にはヘブル書を読んでいます。「ワオ！」という感じです。これ以上のものはないですね。イエスは、今にも戻って来られます。イザヤ書、ヘブル書、信じられます？
「イザヤの 6 章」で見ましたが、イザヤが恐れ震えた話です。表現が悪いかもしれませんが、ウジヤ王が亡くなった年のことですが、ウジヤ王は良い王でした。ウジヤ王の下で、イスラエルは平和と静けさを享受してましたが、彼は亡くなりました。どうしましょう？！　そこでイザヤは、「私は見上げた」と言っています。いつも、そうすべきです。（イザヤ　6:1　参照）ちょっとだけ、その話をさせてもらってもいいですか？　見通しが良くない時は 、「目を上に向けよ」と言われています。見上げてください。上を見てください。そして、イザヤが見上げた時に何が起こったのか？　彼は主を見ました。高く上げられ、高貴な、その裾は神殿に満ち、つまり、主の栄光だったのです。彼はケルビムのいる天上の光景を描写していますが、彼が言うには、これは最初に読んだときには取るに足らないと思うような風景ですが、そうではありません。彼は、主が御座に着いておられるのを見ました。想像できますか？　私の場合は、このように考えてしまいます。臨床用語があるのは分かっていますが。しかし、あなたは想像できますか？　もし、主がイザヤが顔を上げると、主が御座の前を行ったり来たりしているなんて。
「どうしようかな？　ウジヤが死んだ？いつのことだ？!」「ガブリエル、ミカエル、こっちに来なさい！何かあったんだ？！」そうではなく、「 落ち着いて、私に任せなさい。」それは何というか、主は何が起こっているか、ご存じないといった感じです。「主よ、今の話を聞いていましたか？」「今の必須条件が何か知っていますか？」「今の制限を知っていますか？！」主が、「それは知らなかった…！」と仰るのを想像できますか？　ー笑ー　「まさか！そんなことは！」ー「そのまさかです！」しかし主は、静かに御座に着き、すべてを支配しておられます。これが理由です。私はこれが大好きなのです。繰り返しになりますが、最初に読んだときは、簡単にそれを見逃してしまうかもしれません。しかし、「ヘブル人への手紙」の著者は、聖霊に促されてこう語っています。主が十字架上の御業を完了されたので、今や彼は、その御言葉の力によって、万物を保っておられると。ただ彼の御言葉だけで。ヨハネの黙示録 1 章を思い出します。ただ、御言葉だけで、です。天と地と海の創造と、その中にあるすべてのものは、主の御言葉の力によるのです。神が、最終決定権を握っておられます。そして、彼が万物を保っておられます。このように考えてみてください。先週の木曜日にお話ししたと思いますが、神の裁きは、時には、重い神の御手が降りてくるように見えると。こんな風に考えたことはありませんか？　神の裁きとは、単に神があなたの人生から祝福を取り上げることで、それで全てが一転し、崩落してしまうのです。なぜか？　なぜなら、すべてを保つ方は、主だからです。主が、すべてを保っておられます。時々私たちは 、主が、私の

人生にこれほど深く関わってくださるのが、当たり前だと思ってしまうという、大きな過ちを犯していると思います。疑問に思うことがよくあります。天国で分かるかもしれませんが、私は何度殺されるべきだったのだろうかと思うのです。そして、殺されなかった。それに気づきもせずに。私が思うのは、天国に行ったときに繰り返しになりますが、このような考え方には臨床用語があることは知っていますが、少しだけ辛抱してください。私たちが天国に着いたら、私は自分の敷地に劇場を持ちます。そこで私はポップコーンを食べます。ところで天国ではポップコーンが食べられます。ポップコーンは天国にもあります。私は座って、８歳の時に起こったことの映画を観せてもらいます。「ぁあ…！思い出した…！」「ええ、わたしはあなたの命を救いました。」ー「ぉぉ…！」「わたしは８歳半の時にも、同じことをしましたよ。９歳、９歳半、１０歳、１０歳半、１０歳９ヶ月、１１歳の時もすべてのあなたの人生に於いて、支えていました。落ち着きなさい。落ち着いて。」
二つ目は、「イエスがすべての制約を超えて、すべてを支配する」からです。4〜9 節は、いくつかの理由で興味深いです。その中でも特に、ヘブル書の著者は、イエスが御使いに比べて無限に優れておられることを、長々と記述するように促されていることです。当たり前のことのように思えますよね？「そんなことはわかってますよ。」「まあ、あの時代は御使いを崇拝していたからね。」これが問題でした。パウロは、「コロサイ人への手紙」でも、その点で、彼らを叱責しなければなりませんでした。当時の出来事は本当に、日の下では何も新しいことはありませんね。（伝道者の書　1:9 参照）
それが今も起きてます。だだ、包装紙が違うだけです。私たちは、いつの間にかイエスを、御使いのレベルにまで下げてしまったのですが、今度は突然、御使いたちが持ち上がり、イエスと同じ土俵にまで上がってしまったのです。ヘブル書の著者が私たちに伝えているのは、イエスがすべての御使いよりも優れておられるということです。イエスは、すべてを支配し、すべてを覆されます。人間については多くのことが語られてますが、御使いについても、数多くの、おびただしい数の本があります。それは、魅力的な研究です。守護天使のことを知っていますか？　天国に行ったら、守護天使に謝らなければなりません。私の担当の守護天使たちの、天国にいる姿が目に浮かびます。
「この人のところに、配属されることになりました。」「嫌だ！ 彼じゃない！」ー「いや、彼だ。行くんだよ。」「実際、この男のためには、10 万くらいの御使いが必要だ。どうしても必要になってくるんだ。」しかし、ここで問題があります。私たちは皆、御使いの地位や意義、重要性を必要以上に高めがちです。その問題点は、イエスが御使いのすべてを支配し、凌駕し、それらのすべての上に君臨されていることです。興味深いと思いませんか？　最初にこれを読んだときには「なるほど」と思いました。しかし、なぜヘブル書の著者は、”イエスは喜びと楽しみの油で、油を注がれた”、（9 節参照）と書くように促されたのでしょうか？　それはどこで手に入るのですか？　喜びと楽しみの油。私にも喜びと楽しみが必要です。さて、その答えは、”喜び/ Joy”と”幸せ/Happiness”の違いを理解することにあります。もう少しご辛抱下さい。「幸せ/happiness」という言葉の語源を知っていますか？　"happenstance(偶然の出来事）, circumstance（周囲の様子）"という言葉から来ています。それが、幸せ/happiness というものです。
物事がうまくいっているときだけ、幸せになれます。今、思いついたんですが、申し訳ありません。
お許しください。あの曲、「Don't Worry Be Happy」（心配するな、幸せであれ）私は、あの曲が嫌いです。ー笑ー　あらゆる面で間違っていますよ。「心配するな、幸せだ。」本当に？　それだけ？　では、明日から始めよう。ー笑ー　本当は、「Don't Worry Be Happy」（心配するな、幸せであれ）ではなく、どちらかというと、こんな感じです。「心配するな、そんな理由はないから。」心配して過ごす１分間は、１分

間を無駄にしたと言われています。なぜですか？　人生で起こっているすべてのことを、誰が支配しているのか知らないからです。あなたは、それを偶然と見るかもしれませんが、本当は神の摂理なのです。神は、すべてをコントロールしておられます。幸せの問題点は、物事がうまくいっているときにしか手に入れることができず、その杯からしか、味わうことができないものですよね？　あなたの場合もそうでしょう？　私の人生の、順調な時だけが幸せだとすると、最高の良い日でも、せいぜい 2 分程度の幸せですね。それだけで、消えてしまいます。自分の状況に基づくので、はかないものです。喜びは、違います。私たちの喜びは、自分の人生で何が起こっているかを前提としたものではありません。喜びは不変です。喜びは、私たちに内在する聖霊から来るものです。そして私たちが私たちは、周りのすべてのものが完全に崩れ去っても、喜びを持つことができるのです。私たちは、人生の試練を経験しいても、その中でも人生に喜びを持つことができます。どうして、それが可能なのでしょうか？　率直に言って、いつも「ヤコブの手紙」を引用するのは、葛藤しています。私たちはまだ「ヤコブの手紙」にたどり着いていません。ところで、ヘブル書の次に来るのは何だと思いますか？「ヤコブの手紙」です。もちろん、その前に携挙が起こらないことが前提です。しかし、そうでなくても、「ヤコブの手紙」です。私は「ヤコブの手紙」が好きではありません！　私はただ、「ヤコブの手紙」が好きではないと言っているだけです。「ヤコブの手紙」は聖書の中で、「ああ、とても祝福される」と思うような書ではありません。「ヤコブの手紙」は、聖書の中でも、読んだ後に、自分がまだ救われているのかどうかさえわからなくなるような書です。ー笑ー　つまり、彼は直球です。「世の友となりたい？あなたは姦淫を犯している！　どうだ？！良い午後を！」ー笑ー　世の中との友好関係。「ヤコブの手紙」の中で一番難しいのは、「私の兄弟姉妹よ、この上ない喜びと思いなさい」ー笑ー

「様々な試練にあうときはいつでも」－ヤコブ１章２節－

本当に…？　それをこの上ない喜びと言えるでしょうか？　それはきっと、原文からの翻訳に問題があるのではないでしょうか。ー笑ー　私の読み方としては、様々な試練を受けている時はこの上ない地獄だと思っています。誰も ”喜びだ！”なんて言いません。恐ろしい試練、激しい試練の中で喜びを経験することは可能であり、実行可能であり、達成可能であると、なぜ彼が言うのかを理解しなければなりません。それは、彼がそう言った後の一言です。その言葉はいいですか？「知っている」神が許可されている試練の方向性を知ること。「神よ、あなたはここで何をされているのですか？」ちなみに"Why /なぜか" を "What/何か "に置き換えてみてください。説明しましょう。

「神よ！なぜあなたはこのようなことを許されるのですか？」”なぜ”ではありません。それはこうです。質問が間違っているということです。間違った質問では、正しい答えは得られません。まずは、質問を正しくしましょう。それは、「”なぜ”あなたはこのようなことを許されるのか？」ということではありません。もっとこんな感じです。

「主よ、今起こっていることで私に知ってほしいことは”何”ですか？」知ること。私は、どんな試練の中にあっても、それをこの上ない喜びとすることができます。なぜなら、聖書の中に、神が私たちにできないことを命じられたり、励まされたりするような聖句があるとは、一瞬たりとも想像してはならないからです。それは神のご性質と矛盾しています。彼はそれをお出来になれないのです。神が私たちを召され、励まされ、命じられているのであれば、神の召されたことは神の権限なのです。主は私たちを召し、励まし、何かをするように命令され、そして、私たちを可能にし、私たちに力を与えるために、聖霊を与えてくださいます。ところで、ヤコブを責めることはできません。ヤコブがどんな人だったか、ご存じで

すね？　イエスの後にヨセフとマリアの間に生まれた人です。想像できますか？　あなたの異父兄弟は人間の姿をした神で、一緒に成長しているなんて？　彼は完璧なんです！「どうしてお兄さんのようになれないの？！」ー笑ー　だからこそ私は、彼がなぜあんなにも生意気で、荒々しく、直球なのかがわかるのです。もし私が世界の救い主、人間の姿になられた神と一緒に家で育ったら、私も同じようになるでしょうし、もっと悪かったでしょうよ。ー笑ー　神が私の人生にこの試練を許されていることを知ることで、この上ない喜びとすることができます。なぜなら神は、私の人生の試練を乗り越えるために、私に欠けているものを与えてくださるからです。自分に足りないものは何ですか？　あぁ…、に、に、にん…忍耐です。言ってしまいました。忍耐。辛抱強さ。我慢です。
「そうすれば、あなたがたは何一つ欠けたところのない、成熟した、完全な者となります。」（ヤコブ１：４参照）
だからこそ、主はそれをお許しになられてるのであり、それが分かれば、そのただ中で喜びを得ることができるのです。「ああ、でもちょっと待ってください。私が忍耐力をつけるために、このような試練を与えておられるのですか？」「そうです。あなたは忘れたのですか？」「主よ、私は何を忘れたのでしょうか？」「ああ、祈りのリストを見直しなさい。自分が何を祈ったか覚えていますか？」これは祈ってはいけません！ー笑ー　もし、忍耐を求めて祈るならば、それを手に入れることができるでしょう。あなたが思っているようなものではないでしょう。
「あなたは祈り、わたしに求めましたね。あなたが忍耐を祈り求めたので、わたしは、”良いでしょう”と。」御使いとはこういうものです。彼らは天国で「それは祈らないで…！！」と。「おぉ、なんてことだ…」「今から残業しなければならない」ー笑ー　しかし、その最後にはこんなことが起きるのです。あなたがそれを乗り越えて、それを振り返ると、こんなことを言うのです。「乗り越えることができたなんて、自分でも信じられません。」いいですか？　しかるべきところに、賞賛をしましょう。あなたはそれを乗り越えられなかった。神がそれを乗り越えさせてくださったのです。それを乗り越えるための忍耐力、辛抱強さ、持久力を与えてくださったのです。今、あなたはその反対側にいます。自分自身にこう言ったことはありませんか？
「あぁ、神がそうして下さると知っていたら、私はその試練を自分の人生に許すために、主とあんなに争うことはなかったでしょう。」
さぁ、正直になりましょう。皆さんは教会にいるのですから、自分に正直にならなければなりません。私たちは、主がなさっていることに対して、蹴ったり、戦ったり、噛んだり、引っかいたりしています。私たちは実際に、不必要に、必要以上に、自分の経験している試練を長引かせています。神が「わたしはあることをしようとしています。わたしに任せてくれませんか？」と仰っているようです。学校でテストを受けて不合格になると、そのテストを再受験しなければならないことがありますよね？　私はそれが大嫌いでした。たくさんのテストを受け直さなければなりませんでした。私はこのテストを再受験したくないので、１回目でちゃんとやりましょう、いいですね。「わたしの邪魔をしてはならない。わたしはあなたの人生で何かをしているのです。これはテストであり、試練であり、わたしがあなたにそれを乗り越えさせます。そして、あなたはそれをやり遂げるのです。」「この過程の中で、この試練のただ中で、あなたが見つけようとしているのは、なぜなら、もしわたしがあなたをその試練から連れ出せば、それによって、わたしがやりたいことをあなたから奪うことになるのです。その中で、そしてそれを通して、あなたは」なんと言ったらいいんでしょう。私の個人的な経験から言わせていただきます。主と共に歩んで

きた長年の人生の中で、最も困難で、最も厳しい、最も辛い時期を乗り越えてきました。文字通りの意味での時間です。大げさではなく、赤ん坊のようになってしまい、祈ることもできません。声を出すのもやっとです。ただうめきながら、主に懇願するのです。そして、私が言いたいのは、主はそこであなたと出会ってくださるということです。そして、その場所で、他では明らかにできない方法で、ご自身を明らかにしてくださいます。そして、主を味わい、良いお方であることを知り、最後の最後に、あなたがそれを乗り越えると、「主よ、わぉ…！」という感じになるのです。「それを経験していなければ、あなたのそんな姿を見ることはなかったでしょう。」もう一度経験したいというわけではないですよ。でしょ？
しかし、その試練の中で、その試練を通して、私の人生にあなたがしてくださったことを、私は何ものにも変えられません。主が私たちの人生を支配されていることに休息し、信頼しない限り、私たちは、私たちの人生の中で、真の喜びの杯から、味わうことは出来ません。
三つ目に、これは重要です。「イエスは私たちに救いの相続財産を与えてくださった。」
ここでもう一度、最初に読んだ際には、ヘブル書の著者が 10-14 節で言っていることですが、そのまま読み返してみてください。「ええ、もちろん。主をほめたたえましょう。」しかし、あなたは見逃すでしょう。ここにあるものを見逃してしまいます。これは、今ここだけでなく、永遠に続くイエス・キリストの優位性の姿です。そして、これを確認してください。
彼は、私に相続財産を残してくださいました。彼はあなたにも相続財産を残してくださいました。ヘブル書の著者は、イエスが御使いよりも優れていることをまだ語っていますが、これらの御使いは、私たちに、私たちのために遣わされた奉仕の霊に過ぎないと言われています。なぜでしょう？なぜなら、イエスが私たちに救いの相続財産を与えてくださったからです。ということは、御使いは決して私たちに崇拝されることはないということです。こんな風に言ったらどうでしょうか？　私たちが受け継ぐものの中に、この御使いたちがいます。使徒パウロがコリント教会を叱ったのは彼らが兄弟として互いに訴え合っていたからということを覚えていますか？　他のクリスチャンを訴えてはいけません。お互いに訴訟を起こしていました。彼は、なぜそんなことをするのかと言いました。天国では御使いたちを裁くことになるのを知らないのかと。（Ｉコリント 6:2,3 参照）
私たちは御使いを超えています。こんなことを言わなければならないのは分かっていますが、こう言うのをお許しください。つまり、私はできるだけ繊細で愛情深い人間でありたいと思っているのですが、人によって悲しみ方が違うのはいいのですが、人が死んだからといって御使いになるわけではないのです。それは降格です。いいえ、私たちは御使いを超えているのです。彼らは私たちが受け継ぐ財産の一部なのです。私はどれだけの御使いを受け継いでいるのでしょうか。繰り返しますが、彼らがとても気の毒に思います。そこに行ったときに、私は彼らに謝ります。彼らは、今だけでなく、永遠に私たちが受け継ぐものの一部なのです。ここで質問です。画面に表示されます。
「なぜ今、私たちは神を信頼できないのか？」
お聞きください。私たちは、このことをよく考えた方がいいと思います。私たちの永遠のいのちを受け継ぐことに関係することです。ここで質問です。もし私たちが救いの相続財産を持ち、永遠に主を信頼しているのであれば、今、主を信頼することができるのは当然のことではないでしょうか。もし私たちが、永遠のいのちを受け継がせてくださる主を信頼しているなら、私たちはさらにもっと、この人生で必要なものを与えてくださる主を信頼すべきではないでしょうか？　故ラリー・バーケット氏は、クリスチャン・ファイナンシャル・コンセプツの創設者です。彼には、長年にわたって私の心に残る多くの言葉があ

りました。彼の名言のひとつに、「子どもたちに何を残すか」という相続に関する質問に答えるものがありますが、自分が死んだ後に資産を残すことで、子どもたちは資産をめぐって争い、お互いに破壊し合い、殺し合い、喧嘩をして、一生口をきかなくなるということがありますね？　彼の言葉はとても面白く、名言だと思います。彼は次のように言っています。
「生きている間に与えておけば、それがどこに行くのかを知ることができる。」
この言葉が好きです。それは、イエスがなされたことだと思います。彼は生きている間に与えられたので、彼は知ることができ、私たちも行く先を知ることができるのです。これは私たちの資産です。私たちが相続人であることを理解していますか？　その言葉だけで、「 ワオ…！」と聞こえてくるようです。「あれが誰だかわかる？」ー「いや、誰なんだ？」「彼らが財産を受け継ぐ人よ。」「…ワオ！」それは何でもないことです。こんな質問があったような気がします。亡くなったのはロックフェラーだとか、そういうお金持ちの人たちだと言いたいのです。そして、その人はこう言います。「彼はどれだけ残したんだ？」それに対して、「全部」という答えが返ってきました。そう、彼はすべてを残したのです。しかし、すべてを息子に託したと言っていいでしょう。そして、彼の息子を見て、「おっ…！」となるのです。「彼は莫大な財産を持つ相続人だ。」私が何と言えるか分かりますか？　「ハッハッハッ…それは何でもないです！　私も相続人ですよ。それどころか、私は永遠に続く資産の相続人なのです。」永遠の長さはどれくらいか知っていますか？　またもや深遠ですが、それは、永遠、永久です。そして、私は相続人です。これは流れを変えることではありませんか？　それは、私たちが相続人であることをキーワードに、この世界での人生をどのように捉えるかを変えるべきではないでしょうか。私たちは相続人です。軽蔑的な表現なのでお許しいただきたいのですが、少し前に信託資金提供者が話題になったことがありました。そう呼ばれているのでしょうか？「ああ、彼らは信託資金提供者だな…！」「金持ちで甘やかされた子たち、裕福な家庭に生まれて…」ある人が誰かを指摘していたのを覚えています。これは昔、本土での話で、ミニストリーではなく、ビジネスの世界での話です。この人は大金持ちで、友人はこう言いました。
「ああ、彼は昔ながらの方法で成功したんだよ。」そして私は、「どうやって？それはどういうこと？」彼は「受け継いだってことさ。」「ぁあ…」ー笑ー　私たちは、「ああ、そうだな、甘えん坊だな」と思っています。私たちが言いたいのは、「自分のものだったら良かったのに」ということです。そういうことです。ー笑ー　しかし、これが言いたいことです。そうです。さらに、無限に素晴らしいものなのです。ただ、これを受け継ぐのだと知ることで、つまり、それですべてが変わると思うでしょう。起こることすべて、人生で起こることは、「あぁ、大丈夫さ。」「落ち着いて、静まって、上を向いて。私は相続人だ。私には永遠に支払われる資産がある。」
第 1 ペテロ 1 章、3〜6 節を読みたいと思います。今朝のアップデートで、先週、主が私を第一、第二ペテロの手紙に導いてくださったことを分かち合いました。この 2 つの手紙にはぜひとも時間を割いていただきたいと思います。私はとても大きな祝福を受け、語られ、励まされました。第 1 第 2 ペテロの手紙ですが、皆さんも御言葉の中で、この 2 つの手紙を再確認してみてください。この狂った世界で私たちが今経験していることにぴったりなのです。しかし、使徒ペテロが、その第一の手紙の 1 章 3 節で言っていることを聞いてください。
第 1 ペテロ 1 章
3 私たちの主イエス・キリストの父である神がほめたたえられますように。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちを新しく生まれさ

せ、生ける望みを持たせてくださいました。
4 また（4 節ではさらに良くなります)、消えて行くこともない資産を…
それは国税庁が課税できないもの。それは、JD 訳にあります。
…朽ちることも、汚れることも、消えていくこともない資産を受け継ぐようにしてくださいました。これはあなたがたのために、天に蓄えられています。
5 あなたがたは、信仰により、神の御力によって守られており、終わりの時に現されるように
用意されている救いをいただくのです。
6 そういうわけで、あなたがたは大いに喜んでいます。(よく聴いて下さい)今しばらくの間、様々な試練の中で悲しまなければならないのですが
分かりましたか？　彼とヤコブはランチを食べながら、その場でこの話をしたと思います。お付き合いください。では、ペテロ、あなたはペテロを愛さなければなりませんね。私はペテロをとても尊敬しています。彼は、聖霊によって私の人生に語りかける権利を得ました。だって、ここで話しているのはペテロですからね。彼は私に、今、2021 年になっても、大いに喜ぶことができると言ってくれています。あらゆる試練や制限、命令、義務などで（ここで止めておきますが、）悲しみを味わわなければならないとしても。どうやって？　なぜなら、資産があるからです。それはあなたを待っています。あなたを待っているのです。それは保たれていて。イエスはマタイ 6 章で、ところで、「マタイ 6 章」は、人類史上最大の投資アドバイスとして、救い主自身が語られたものです。
「自分のために天に宝を蓄えなさい。そこでは虫やさびで傷物になることはなく、盗人が壁に穴を開けて盗むこともありません。」（マタイ 6:20）
自分のために、この世に宝を蓄えてはいけません。一瞬にして全てが消えてしまうような場所に。だから、私には資産があります。弁護士の関与はありません。必要なし。検認もありません。ところで、あなた方は私の兄弟です。これについても争うつもりはありません。それが資産ですか？　さて、それではここでの方程式が変わってしまいますね。うむ、それは私を少しは落ち着かせたようです。実際には、かなり。私を本当に落ち着かせ、私の心を静めました。なぜなら、私にはこの資産があるからです。はい、確かにかなり荒れてきました。そして、試練がかなり難しくなってきました。そして、人生はかなり厳しくなり、迫害もひどくなっています。しかし、私はまだ大いに喜ぶことができます。私はこの「しばらくの」という言葉が好きです、しばらくの間。ほんの少しの間という意味合いが込められています。繰り返します、深い意味があるのですが、永遠の光の中では、これは何でもないことです。これは、永遠に続くことに比べれば、何でもないことです。今はもう大丈夫です。ここからが本題です。永遠の命を受け継ぐことができたら、それを楽しみにすることができます。それは、私たちが何かを乗り越えようとするときに、とても楽にしてくれます。なぜなら、私は相続人だからです。(笑)　私の父が誰なのか知っていますか？私の神が誰なのか知っていますか？　私の神が誰なのか教えてあげましょう。実は、使徒パウロが（ローマ）8 章 31～32 節で語っているのです。これは修辞的な質問で、実際には 2 つあります。パウロは御霊によって尋ねています。
ローマ人への手紙 8 章
31 では、これらのことについて、どのように言えるでしょうか。神が私たちの味方であるなら、(神は味方です）誰が私たちに敵対できるでしょう。
次に 32 節ですが、ローマ人への手紙 8 章 32 節をもう一度ご自身で確認してみることをお勧めします。

32 私たちすべてのために、ご自分の御子さえも惜しむことなく死に渡された神が、どうして、御子とともにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがあるでしょうか。

それが私の御父なのです。私の代わりにひとり子を送って死なせてくださったほど、私を愛してくださっているのです。それだけ、私を愛してくれているということです。そして、もし私が、この方を信じるならば、私は永遠に地獄で滅びることなく、永遠のいのちを受け継ぐことができます。それだけではありません。他にも知っていますか？　天にいる私の父、愛に満ちた天の父が、私のためにこのようなことをして下さるとしたら、何かなさりたくないことがあるでしょうか？　いや、考えてみてください。彼は私たちを愛しているからこそ、ひとり子を差し出すことを惜しまなかったのです。では、もし神が御自分の息子を喜んで与えてくださるとしたら？　私は自分の息子を差し出す気はありません。言ってみただけです。私はあなたを愛していますが、あなたをそれほどまでには愛していません。私は息子を愛しています。私はあなたのことも愛していますが、でも、そこまでではないでしょう。しかし、神は私たちをそれほどまでに愛してくださり、そのひとり子を与えてくださいました。私たちには 2 人の息子がいます。つまり、理論的には私があなたに一人の息子を与えても、まだ一人残っています。それはわかっています、許してください。神の唯一のひとり子。もし、神がひとり子を喜んで与えてくださるなら、主があなたのために喜んでしてくださらないことがあるでしょうか？　つまり、ラッパが鳴り、キリストにある死者が先によみがえり、生き残っている私たちが引き上げられ、携挙されることを神に信頼しているのです。そのことで神を信頼しているのに、今月の家賃のために神を信頼できないのでしょうか？　理に適っていませんか？　私が言うことが嫌味に聞こえるかもしれません。私は自分に言い聞かせているのです。自分でもよくやってしまっていると思います。私は、「主よ～！」という感じです。

「落ち着きなさい。あなたは、携挙されるとわたしを信頼していて毎週のように説いていますね、”牧師さん”。」それは嫌いです。あなたたちは皆さんは自分がクリスチャンだと名乗っています。私にとっては最悪です「それなのに、あなたは”牧師”を名乗っているのですか？」あ”～…！　またもや、私の問題はもう十分です。

「毎週のように説いていますね。これに関してはわたしを信頼しているのに、あれに関しては信頼できないのですか？　本当ですか？　それは全く理に適っていないのではないですか？　あなたは相続人です。わたしはあなたをとても愛しています。あなたのためにすべてを捧げ、わたしのすべてを犠牲にしました。なぜ私が…」想像できますか？　これで終わりにしますが、これで終わるべきではないかもしれません。

最後は別の話で締めくくるべきでしょう。神が「よし、わたしは自分の役割を果たした」と仰るのを想像できますか？

「わたしはあなたにひとり子を与え、あなたのために死にました。あなたの罪のために完全に支払われ、埋葬され、よみがえり、ある日再び戻ってくる。これからは、自分の力で生きていくんだ。坊や。」

私が？　いや、主よ、私にはあなたが必要なのです、ああ、あなたが必要なのです。「あなたがそうであることはわかっていますが」ここで重要なことがあります、

「息子よ、娘よ、わたしはあなたに多くの投資をしているのです。」

今、考えてみてください。

「あなたにはたくさんの投資をしています。あなたのためにたくさんのお金を払いました。あなたは自分のものではありません。買い取られたのです。わたしはこの投資に興味があります。大丈夫です。問題

ありません。安心しなさい。落ち着いて、顔を上げなさい。あなたの贖いはもうすぐだからです。」
お立ちください、賛美チームは上がってきてください。私たちはこれはまさに、まだ１章ですよ！
私はヘブル書が大好きです。
主よ、ありがとうございます。あなたの御言葉にとても感謝しています。ワオ、ワオ　ヘブル書に感謝します。
主よ、この書に感謝し、この章にも感謝します。主よ、私たちが今日ここで見たことをあなたが受け止めてくださるように祈ります。そして、特に落ち込んでいる人のためにそして苦労して、傷ついて、人生の中で困難な試練を経験している人を、主よ、あなたが励ましてくださるように祈ります。そして、彼らの心を強め、ただ心を落ち着かせてください、主よ。彼らの心をあなたの中で落ち着かせ、あなただけがお出来になるように、必要なことを思い出させてください。主よ。あなたがどれほど私たちを愛し、私たちに投資してくださっているのか、私たちにどれほど与えて下さっており、私たちを待ってくださっているのかを。主よ、感謝します。イエスの御名によって、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ
http://www.calvarychapelkaneohe.com/
Calvary Chapel Kaneohe47-525Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii　　筆記 hukuinn7